

謎解き企画で達成感！



写真上：謎解きめぐりをする家族。
写真右：学生が企画した大焚き火



「謎解き～サンタからの挑戦状～」を、栗の丘サイトや山桜サイト、保全エリアなど、キャンプ場全体を大きく使って実施しました。

子どもをターゲットに作った企画でしたが、いざ始まってみると大人の方々も夢中になって挑戦してくれたので、その熱中ぶりに驚かされました。同時に、みんなが楽しめる謎解きを形にできたことへの達成感も強く感じました。

また、ワークショップでもお手伝いさせていただき、貴重な経験となりました。

初めてのイベント企画で多くの課題や問題もあったものの、最終的にはイベントを成功させることができ良い経験になりました。

また機会があればぜひ参加させていただきたいです。

(茨城キリスト教大学 経営学部 米岡ゼミ・ゼミ生寄稿)

SAVE JAPAN PROJECT



写真上：6月28日。大豆の種蒔き時。
写真下：再生農圃には熟成した大豆。

再生農地での大豆収穫

しもはじ里山の耕作放棄地に増殖した外来種ニワウルシ。驚異のスピードで増殖、巨木化する特性を持つことから「生態系被害防止外来種」として環境省が駆除をよびかけています。

NP0環～WAの本拠地「しもはじエリア」で初めて侵入を認めたのは2022年夏。翌年にSAVE JAPANプロジェクトとしてニワウルシ駆除を開始、2023年年明けに1つ目のプロジェクトエリア「クローバーの谷」の駆除に着手、同年秋には2つ目のエリア「再生農地」と命名した耕作放棄地での駆除に乗り出しました。

地上部の駆除に1年、その後半年をかけて地下茎の駆除を行い、今年2025年6月に畑の土壌再生に向け大豆の種を蒔きました。猛暑の中繰り返した除草の甲斐あり無事に育ち、枝豆から大豆へと成長、熟成し、収穫の日を迎えることが出来ました。

今回のイベント(2025/11/29)では全体の1/4を収穫。足踏み機械で脱穀をし、古道具「唐箕」で鞘や土ほこりを飛ばしました。粗方

ゴミがなくなった大豆は選抜班へ渡され、「種用」「加工用大豆」「廃棄」の3種に分けられました。大きくふっくらとした美しい豆は来期の種となり、加工用は味噌づくりや豆乳、豆腐へと加工されます。里山の生態系を守るには「使い続ける」ことが不可欠です。NP0環～WAは整備だけに留まらず、使う目的をつくることを念頭にプロジェクトを進めています。(AYA)



写真左：足踏み機械での大豆の脱穀。やってみるとなかなか楽しい作業。

写真右：収穫した大豆を「唐箕（とうみ）」で選別。